第18回 日本臨床漢方医会 漢方家庭医講習会

-皮膚は生体を守る-手強い皮膚疾患の漢方治療

> H30年10月13日(土) アオキクリニック 二宮文乃

経 絡と蔵 象

経絡と蔵象

経絡とは、病位のことで「生体状況段階層」といわれ『100%健康な状態から死の一歩手前まで』のどの段階に位置づけられているかの時間的把握・・・・(生体の障害度、危険度を示す。)

蔵象とは、病質といわれ病気の分類のことでこの症状・病名は、どの種類のグループに分類されるかの空間的把握

•••(この患者はどこから治療をするかの最優先治療順序の指標)

どのようにして把握されたのか?

経絡とは、生体を刺激することにより敏感に 反応するツボ(刺激点)のグループを12種類に 分類したもの

•••薬物帰経で効果範囲が規定される

蔵象とは、生薬の『味・色』に敏感に反応する症状のグループを5種類に分類したもの

味(酸味·苦味·甘味·辛味·鹹味) 色(青色·赤色·黄色·白色·黒色)

経絡と五行の鑑別

傷寒理論:病位のことで、生体状況段階層といい 患者が『100%健康状態から死の一歩 手前』の、どの位置にいるかの指標。 生体の障害度、危険度を示す。 (生薬の帰経で効果範囲が規定される) 例) 脾経・腎経

金匱理論:病質のことで、この患者は『どの症状から 治療をするか』の最優先治療順序の指標。 (生薬の味と色で分類されたもの) 例)脾土・腎水

経絡と蔵象の違い

病人に対する方剤の選択は、経絡の生体状況段階層で決まる。

「それはなぜか?」

生薬には、効果範囲という、生体に一番効果が出る段階がある。

それが生体状況段階層で生薬の薬物帰経で決まる。

症状に対する方剤の選択は、五行の蔵象で決まる。 「それはなぜか?」

いろいろな症状は、五行に分類される。

その五行の分類基準は、生薬の5種類の味と色で決まる。

経絡

日本漢方と現代中医学では、無視されています。

~病位·病期~ 『生体状況段階層』

同じ症状・病名でも、

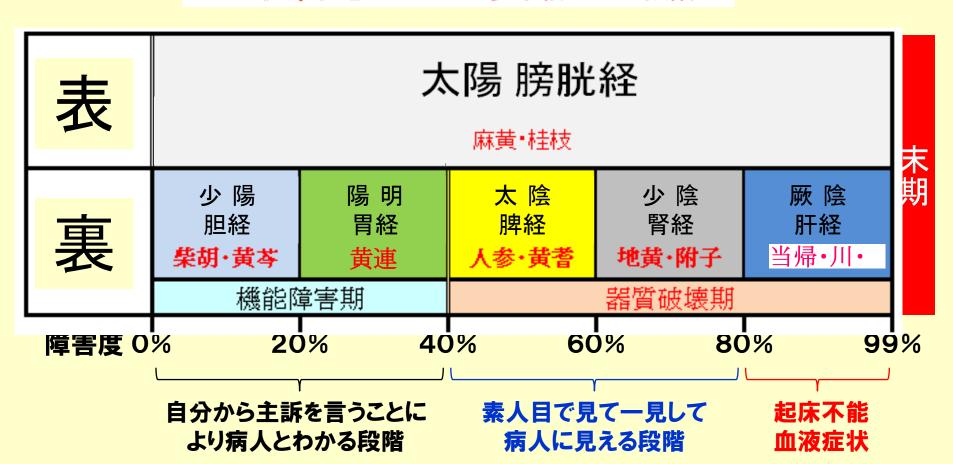
「100%健康状態から死の一歩手前」のどの段階にあるかによって対応する方剤は違います。

病期・病位の一覧表

| | 支曼 | 表 | | | | | | Į. | | | | | |
|---|--------|----------------|---------|-------------|-------------|----|-------|-------------|-----|-----|----|----|--------|
| 生 | | 上焦 | | | | | | ſ | | ۲ | 焦 | | |
| 卫 | 전 전 | 衛 | 分 | | | Š | 気 分 営 | | | | | 分 | 且尔 |
| 糸 | 圣 各 | 膀 胱 経 | 肺経 | · 心 経 | 心 包 経 | 胆経 | 胃経 | 小 腸 経 | 三焦経 | 大腸経 | 牌経 | 腎経 | 肝 経 |
| 六 | 熱 | ا ر | <u></u> | 少陽病陽明病 | | | | | | 少吟 | 厥吟 | | |
| 経 | 寒 | | 陽 病 | | | | | 急病 | | | | 陰病 | 陰病 |

~経絡~

100%健康状態から死の一歩手前のどの段階!?



経絡の構造

~100%健康から死の一歩手前のどの段階~

①経脈・・・・ツボ表面の症状(表面)

②絡脈・・・・ツボ内部の症状(内部)

例題)

皮膚症状が胆経で病期の生体状況段階層が脾経の場合:どの方剤? 現代中医学では、皮膚症状が出現している経脈の胆経を治療しています。 原典中医学では、本治として脾経の生体状況段階層を方剤で 標治として胆経のツボを刺激治療します。

蔵象

日本漢方と現代中医学では重要視されています。

~ 五行•蔵象•病質 ~

いろいろな症状は、五行と言って5種類に分類される。

そして

どの症状から最優先に治療選択するのか?の指標である。

五行•蔵象

< 最優先治療選択 >

| | 臓 | 腑 | 官 | 感 | 主 | 支 | 液 | 向 | 邪 | 数 | 味 | 色 |
|----|---|----|---|----|---|----|---|----|----|---|----|----|
| 肝木 | 肝 | 胆 | 目 | 視覚 | 筋 | Л | 涙 | 散証 | 風邪 | 3 | 酸味 | 青色 |
| 心火 | 心 | 小腸 | 舌 | 味覚 | 脈 | 乳 | 血 | 升証 | 火邪 | 2 | 苦味 | 赤色 |
| 脾土 | 脾 | 胃 | | 食欲 | 肉 | 脂肪 | 唾 | 降証 | 湿邪 | 5 | 甘味 | 黄色 |
| 肺金 | 肺 | 大腸 | 鼻 | 嗅覚 | 皮 | 息 | 汗 | 収証 | 燥邪 | 4 | 辛味 | 白色 |
| 腎水 | 腎 | 膀胱 | 耳 | 聴覚 | 骨 | 髪 | 尿 | 滑証 | 冷邪 | 1 | 鹹味 | 黒色 |

五行(五臟)

●睡眠・脳・生殖器

●泌尿器系 内分泌全般

●成長、発育、生殖 老化

●水分代謝 耳•骨•歯•髮

●親からの気

(エネルギー) を蓄える

腎:生命機能

膀胱:防衛機能

耳:耳症状

骨:骨格症状

髪:髪症状

尿:排尿異常

温:体温

恐:おびえノイローゼ

呻:うなる、うめく

聴:聴覚異常

冷:镇静消炎 慄:臆病

●気(エネルギー) 全身に運び めぐらす

●水分代謝

肺: 呼吸機能

大腸:排泄機能

鼻:鼻症状

声:声質

燥:水分排瀉

咳: 虚勢空元気

鹹味

黒色

礟

戳

礟

鹹味

黒色

童

壟

肺 金

嗅:嗅覚異常

皮:皮膚症状

息:呼吸

汗: 発汗異常

悲:センチメンタル

肝:神経機能

胆:解毒機能

目:目症状

視:視覚異常 爪:爪症状

涙:涙量異常 臭:におい

風:運動感覚 握:緊張あがり

怒:怒り ふさける: 4回

肝

木

相剋

母子関係(守り合う関係):相生

相生(強める)

相克(弱める)

錱

壟

8

徿

錐

主従関係(力関係)

霏

心:精神症状

味:味覚異常

乳:乳房

●自律神経をコントロール 情報の安定

節肉の働き、目や爪の症状

●全身の血液量を調整

곢

礟

心

火

爭

甘味

黄色

金

徿

脾

:相克

苦味

赤色

血:血液異常

色:顔色

憂:心労苦労

笑:笑い狂う

小腸:循環機能 舌:舌症状

脈:血管症状

火:興奮炎症

壴:くどい

腔:栄養調節 胃:消化機能

□:□唇症状

湿:水分保持

●血液循環を維持

●血管から血液がもれない

●筋肉に栄養を与える

●気(エネルギー)を作る

ようにする

水分代謝

●睡眠のリズム調節 考えたり判断する

食: 呑食異常 肉:筋肉症状

脂:脂肪

唾: 唾液異常

形:体型

蔵:せっかち焦り

思:叠迫観念

人間の成長と老衰

| 成 男 | 0 | ~3 | ~6 | ~9 | ~12 | ~15 | ~18 | ~21 | ~24 | ~27 | ~30 | ~33 |
|------------|------|----------|----------|-------------|----------|-------------|----------|----------|-------------|-------------|-------------|----------|
| 長 女 | 0 | ~2 | ~4 | ~6 | ~8 | ~10 | ~12 | ~14 | ~16 | ~18 | ~20 | ~22 |
| 経 | 肝 | 腎 | 脾 | 大腸 | 三焦 | 小腸 | 胃 | 胆 | 心包 | 心 | 肺 | 膀胱 |
| 絡 | 解武毒器 | 生側 命近 | 栄貯 養蔵 | 調全 整身 | 免消 疫炎 | 循津 環液 | 胃運 腸輸 | 心勇 身気 | 情胃 緒袋 | 精心 神霊 | 呼交吸換 | 免防 疫衛 |
| 老男 | 84~ | 80~ | 76∼ | 72 ~ | 68∼ | 64~ | 60~ | 56∼ | 52 ∼ | 48~ | 44~ | 40~ |
| 衰 女 | 95∼ | 90~ | 85∼ | 80∼ | 75∼ | 70 ~ | 65∼ | 60∼ | 55∼ | 50 ~ | 45 ∼ | 40∼ |

この図は、経絡と「人間の成長と老衰」の関係を示します。

成長は、「~まで」を示し、老衰は「~から」を示します。生まれたと同時に生体を守る肝経が備わり、 男3歳女2歳までに生命の根源の腎経が完備されます。逆に健康体なら男80歳女90歳から腎経が 弱っていきます。病気の場合は、その侵された経絡が損傷し、子供の場合は、病気ではなく気がまだ 未成熟と考えます。ですから腎経の場合は、子供は未成熟と老人は病気と考え同じ方剤が選択され ます。

人間の成長と老衰



"気"。病



"気"は未成熟

秩序を保てない!



皮膚と経絡の関係

皮膚は外の環境と体の境界をなす臓器である。

しかし、境として体を覆うためだけにあるのではない。

皮膚は、外部に対して、防衛の最前線として働いていることはよく知られている。

皮膚の表面には経脈という気の通り道があり、全身をめぐる。

気がよくめぐっていれば、体表は温まり、外部にたいする防衛能力も高くなる。 しかし、経脈の働きは、それだけではない。

体の中をコントロールする働きも持っているのである。

言い換えれば、体を治す力を持っているのである。

そのような高度な機能は、脳と神経がコントロールをしているのだと現代的に考える。

多くの単細胞生物には脳はない。

でも 細胞をとりかこむ膜が脳のかわりをして、外の環境をいち早く察知し、情報、物質の出し入れを行ない、命を守っている。

人間のもつ ひとつひとつの細胞でも同じである。

生体全体を取り囲む皮膚が、もっと高度な役割を果たしていても不思議ではない。たとえば、皮膚にできた術後の瘢痕組織や傷跡は、気づかない間に、体のあちこちに障害を引き起こす。

皮膚と経絡の関係

それらをやわらかくすることで、体の内外の疾患がよくなったという症例をこれからお示ししようと思う。

内科医も外科医も、そして皮膚科医も皮膚に出来た傷跡に関心を持つことは少く、それらが 後々全身のあちこちに影響を及ぼしているとは夢にも思わない。

しかし、現実はそうではないのである。

皮膚は、体をコントロールする要の臓器であり、そこに傷があって固くなっている状態は、体にとって大きな影響をもたらしているのである。

症例を挙げるまえに、なぜ、体に残ったわずかな傷や、固くなった瘢痕組織が体に影響を及ぼすのか!!

体には、気の通り道が張りめぐらされている。

測定したり、目で見ることはできない。

しかし、実際長い歴史のなかで、経絡の存在は確かめられてきた。

それは、神経系でもなく、内分泌系でもない。

科学ではまだ解明されていない、未知の情報伝達システムである。

経絡と蔵象の関係

~脾経と脾土を例にして~

同じ字(記号:脾、腎、肝等)を使用する 場合の経絡と蔵象の区別は?





経絡では

経絡の「経」の字を後につける。

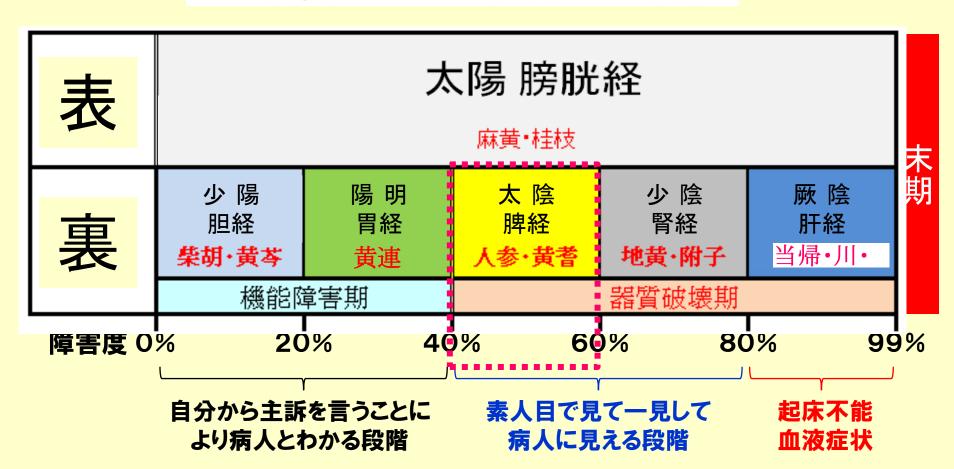
脾土

蔵象では

五行の「土」の字を後につける。

~経絡の脾経~

100%健康状態から死の一歩手前のどの段階!?



~蔵象の脾土~

| | 肝木 | 心火 | 脾土 | 肺金 | 腎水 |
|---|----|----|----|----|----|
| 臓 | 肝 | 心 | 脾 | 肺 | 腎 |
| 腑 | 胆 | 小腸 | 胃 | 大腸 | 膀胱 |
| 官 | | 舌 | | 鼻 | 耳 |
| 感 | 視覚 | 味覚 | 食欲 | 嗅覚 | 聴覚 |
| 主 | 筋 | 脈 | 肉 | 皮 | 骨 |
| 支 | 爪 | 乳 | 脂肪 | 息 | 髪 |
| 液 | 涙 | 血 | 唾 | 汗 | 尿 |
| 華 | 臭 | 色 | 形 | 声 | 態 |
| 向 | 散証 | 升証 | 降証 | 収証 | 滑証 |
| 邪 | 風邪 | 火邪 | 湿邪 | 燥邪 | 冷邪 |
| 数 | 3 | 2 | 5 | 4 | 1 |

《脾胃の生理と病理》

定理1:脾は運化を主る

栄養障害 ◆── 張湛 ◆──水分停留 ◆── ①飲食物を消化吸収し、栄養物を「気」「血」「水」に変化

②同時に新旧交替して、廃物を体外に排泄

③栄養物を全身に配分、水湿で滋養する

→「後天の本・気血生化の源」 →「脾は生痰の源」

定理3:脾は筋肉・四肢を主る

<mark>浮腫 ◆── 水湿停留</mark>

筋 実:肥満肉 虚:やせ

四 手足に力が入らない

肢 四肢脱力・下垂状態

定理4:脾は胃と表裏をなす

- ① 脾は昇性・胃は降性
- ② 脾は湿を悪み、燥を喜ぶ胃は燥を悪み、湿を喜ぶ
- ③ 胃は受納と腐熟を主る
 - ①ゲップ、悪心、嘔吐、便秘
- 引 ②胃痛
 - ③食欲不振



定理2:脾は統血を主る

- ①造血機能
- ②血管壁の正常維持 血流をコントロールして血管内を運行させ 血管外に漏れないようにする
- ③止血因子の生成と供給

定理5:脾は口に開孔し、その華は口唇にあり

食欲と味覚を主る

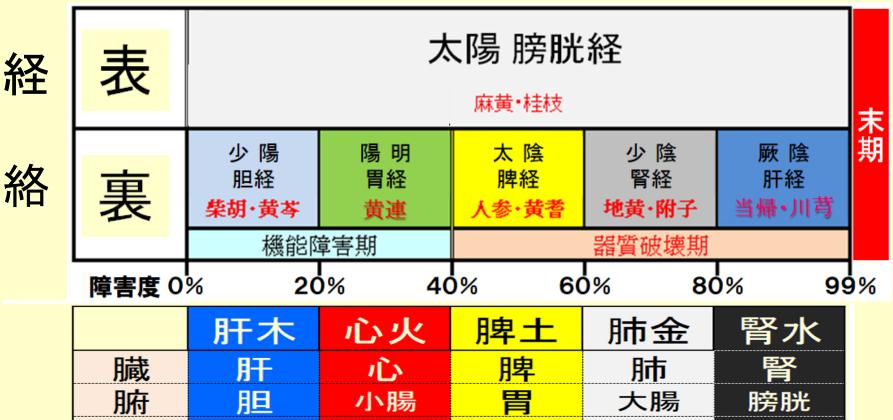
食欲旺盛 **◆**→ 食欲不振 味覚正常 **◆**→ おいしくない 口唇ピンク**◆**→ 荒れる

定理6:脾は「意」を蔵す

- ①思慮・思考を主る
- ②記憶力

思考力•減退記憶

- ①生血・・・実:瘀血 虚:貧血
- ②少量ジワジワと出血傾向
- ③少量ジワジワと出血傾向



官 舌 鼻 目 耳 感 視覚 聴覚 味覚 食欲 嗅覚 骨 主 筋 脈 皮 肉 髪 支 息 乳 爪 脂肪 液 血 汗 涙 尿 睡 華 声 態 臭 色 邢纟 向 散証 升証 降証 収証 滑証 邪 冷邪 風邪 火邪 湿邪 燥邪

5

4

2

蔵 象

数

3

蔵 象

| i | 経 | 表 | | 大 | 、陽 膀胱 _{麻黄・桂枝} | # | | |
|---|---|-------|-------------------------------------|-------|---------------------------|--------------------|---------------------------|----|
| | 絡 | 裏 | 少 陽 陽 明 胆経 胃経 柴胡·黄芩 黄連 | | 太 陰 脾経 人参·黄耆 | 少 陰 腎経 地黄·附子 | 厥 陰 肝経 当帰・川芎 | 末期 |
| | l | _ | 機能障害期 | | | 器質破壊期 | | |
| , | | 障害度 O | % 20 | j% 40 |)% 60 |)% 80 |)% 9! | 9% |
| | | 脾土 | 胆経 | 胃経 | 脾経 | 腎経 | 肝経 | |
| | 臓 | 脾 | | | | | | |
| | 腑 | 胃 | | | | | | |
| | 官 | П | | | | | | |
| | 感 | 食欲 | | | | | | 蔵象 |
| | 主 | 肉 | | | | | | 合 |
| | 支 | 脂肪 | | | | | | 涿 |
| | 液 | 唾 | | | | | | |
| | 華 | 形 | | | | | | |
| | 向 | 降証 | | | | | | |
| | 邪 | 湿邪 | | | | | | |

症例

脾経・腎経・肝経について

太陰 脾経

卑とは、大事なものをしまっておく器、即ち、栄養源になるお酒をしまっておく酒器であり、解剖学上の膵臓の形が、とっくりのような形をしており、卑に似ているので、古代人は、膵臓を見て脾と名づけ、これに栄養という機能を代表させた。「営分」であり、異常肥満とか異常療痩のように、一見して、栄養障害がわかる程の段階まで病位が進んだ状態である。脾経に入る薬物は、全身栄養の調和、胃腸や膵臓機能即ち、消化吸収機能の調整などの効果を与えることができる。

症状で云えば、意識弛緩、嗜眠、ひきつけ、異常な肥痩、憔悴、常時倦怠感、顕在する糖尿病、ひどい浮種または寝汗あるいは帯下、遺尿、黒便、呼吸促迫などが該当する。脾経と次の腎経は常習性疾患である。

I·K 女性 37才 163cm 48kg BD110/60 看護師

主訴:AD 全身增悪

現病歴:生後6ケ月頃よりADありステロイド外用使用、その後、あまりひどくなく 関節部位にあり。20才仕事(看護師)する様になって全身悪くなるがステロ イド外用で様子をみていた。ステロイド内服は用せず。

27才結婚し29才出産 症状よくなり、34才2人目出産 全身悪化する。 35才仕事を再開す。36才他医院受診 十全大補湯 排膿散及湯 3週服 用 軽減せず。当院に紹介される。

現 症:顔36.8℃ 手26℃ 足22℃ 腋38℃

全身カサカサ 痒い 掻破による 湿潤あり 寝つき寝起きよい 水分10 尿利5~6回 便秘(+)2~3日1回 生理28日~30日 周期にて6日間 痛み(ー)量普通 手足多汗症 冷え症

腹 証:両胸脇苦満 心下痞 臍上悸 左腹直筋緊張 小腹急結

舌 証:紅 裂紋あり 無苔 静(++)

治療と経過: 六味丸5. Og + 温清飲5. Og 2週 食欲あるが油っぽいものは摂取 したくない

> 六君子湯5. Og 補中益気湯5. Og (夜)消風散2. 5g+サフランO. 5g 真武湯5. Og 六君子湯5. Og 1週 胃の調子よいがゲップあり 小青竜湯5. Og 桂枝湯5. Og 便はよい 食欲なし 陥谷に施灸



2週後













2週後











S·Y 男性 83才 156cm 36kg BD120/68 不動産手伝い

主訴:汎発性皮膚炎(痒疹) 便秘 嗄声 喘息

現病歴:10年前より全身に発疹。痒みあり 他医院にて外用ステ

ロイド使用するも軽減せず。喘息の発作が出ている時は落ち着いていたが、2年前より発作が落ち着いてきたら又皮膚炎発生増悪す。紹介にて当院受診

既往歴:38才胃潰瘍の手術

70才前立腺肥大の手術

70才両白内障の手術

70才痔の手術

腰椎スベリ症で手術 2回施行

53才より喘息でブラルカスト・フェキソナフェジン・クラリスロマイジン・アミロジン・アモバン・クレストール・プレセンド・ベタヒスチンメジレを服用中 現在迄 2年前妻死亡す

現症:全身に紅皮症・一部痒疹化 痒みが強い、その為、 寝つき寝起き悪くアモバンを服用す。水分1.5% 口渇(一)尿利12~13 夜間なし便秘(一) 普通便 タバコ30年前やめた アルコール(ー)